

関係団体意見概要

令和3年度墨田区議会定例会9月議会において報告を行った「すみだトリフォニーホールのあり方」について、関係団体へ意見照会を行った。

1 対象

- (1) 公益財団法人 墨田区文化振興財団
- (2) 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
- (3) 公益社団法人 日本オーケストラ連盟

2 意見概要

公益財団法人 墨田区文化振興財団
<p>「あり方」は、国の支援を受けながら戦略的な事業展開を行っている点、ホールの直近の取組を高く評価している点、長年にわたるアウトリーチとそれに対する成果を明らかにしている点など、区・ホール・新日本フィルハーモニー交響楽団が一体となった事業展開の重要性を明らかにしている点が評価できる。</p>
<p>今後のホールのあり方を展望する上で重要と思われる視点を3つ示したい。</p> <p><u>1 ホールの持つ独自性・優位性を活かすべき</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランチャイズ制度はホールの価値を高める基軸であり、区民、ホール、新日本フィルハーモニー交響楽団が三位一体となった事業展開を進めること。 ・すぐれた音響特性と日本最大級のパイプオルガンを将来にわたって維持していくこと。 ・舞台操作の専門スタッフ、ホール案内スタッフなど、長年ホールを支えてきた高い専門性と経験を評価し、現場のクオリティの高さを維持していくこと。 <p><u>2 音楽事業を通じた、墨田区への貢献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールは、社会的包摂、区の行政課題の解決に資するものである。 ・文化力が都市力や地域力を規定する。 <p><u>3 今後の墨田区の発展・成長を牽引するイベントの開催を提案する</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールを拠点とした、区内の様々な芸術文化の総力を結集し、各行政分野と連携したイベントを提案する。

公益財団法人 墨田区文化振興財団
音響性能に影響を及ぼす可能性が高いため、ホールの内装工事には音響設計会社の考えを重視し、計画の段階から慎重に進めるべきである。
公共施設として、バリアフリー法令等やSDGsの理念に基づき、利用者へのサービス向上に繋がる改修をするべきである。
建物・設備の劣化は日々進行しており、専門家による定期的な調査や、現場スタッフへのヒアリングにより、必要に応じて修繕計画を見直すべきである。
「緊急性の高い修繕」であっても、休館を伴うものは可能な限り大規模修繕と同時期に実施するべきと考える。
パイプオルガンは開館から一度もオーバーホールを実施していないため、大規模修繕で必ず実施するべきである。実施時期については、大ホール内装関係の工事終了後が望ましいと考える。

公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
「あり方」に記載されているとおり、ホールはオケストラの活動の場として、日本を代表するコンサートホールであり、生音によるコンサートを主眼として設計されている。これを貫くためにあくまでも音響に拘っていただきたいと考える。
お客様は非日常的空間を求めて来場される。非日常的空間を演出し、ゴージャスな雰囲気してほしい。雰囲気を意識した照明の明るさや光色に適した照明器具などに配慮してほしい。
天井改修の際は、補強した素材がオーケストラの音に共振せず、音響の変化がないように音響設計会社と十分な議論をしてほしい。
舞台上の風向きが均一になる様をお願いしたい。また、ロビーとホールの気圧の差がないようにしてほしい。そのためにはホール内の湿度の一定管理が必要かと考える。
来場者へ、演奏者の顔をもう少しはっきり見せたいと考えているので、熱の発生を抑え、舞台の照度を上げることに注意を払ってほしい。 また、音楽ホールの特性でMCマイクの音が反響して聞き取りにくい面があるため、響きを考慮した工夫を考えてほしい。

公益社団法人 日本オーケストラ連盟

日本の公的なホールが多くは、多目的ホールである。多目的（オーケストラ・合唱と演劇・歌舞伎・能・落語などの伝統芸能）に施設を利用する場合でも、音と声の両面においてある程度の質を求めるものであるが、本来は両方の機能を併せ持ち、かつ両面において一流の質を持つことは難しい。その点、トリフォニーホールは音のクオリティを優先して作られた、世界でもトップクラスのホールである。近年、ホールでは区民の多岐にわたる期待に応えるべく、音楽事業以外の公演も展開しているが、現場（出演者、技術スタッフ）は苦勞しながら進めていると推察する。

施設特性上、マイクの使用にあまり向いているホールではない。生の楽器による演奏、生の声が美しく響くような作りになっている。マイクをとおした声はかなり活舌を意識しても、聞き取りにくいケースはある。しかしながら、今後も質が許容される範囲においては「向いていない」利用方法も工夫をして利用していくことは必要と思う。

「一部のクラシックファンの方しか、ホールの恩恵を受けていない」という意見もあると思うが、音楽鑑賞教室やアウトリーチ活動なども評価をしていただきたいと考える。こうした活動により、墨田区民で「一度もホールを訪れたことがない」という方は減ってきているはずである。また、ホールがあることにより、区外から錦糸町を訪れる方々が多くいることをもっと評価していただくべきである。ホール特性を生かした活用をするためには、それらを享受し、楽しみとする方々の育成事業も重要となる。今後は、ホールとすみだ北斎美術館の共同企画を検討してみてもどうか。

区民を含むアマチュアの音楽愛好家の利用者にとっては、東京でも有数の機能を有するホールで演奏出来ること自体が大きな楽しみである。これらのことも広く発信することでホールの見え方が変わっていくと考える。

区（行政）と新日本フィルハーモニー交響楽団の関係は全国でも「先陣を切った」ものである。また、本番を行うホールで練習をするということは、一流のオーケストラの必須条件と言える。そのため、「フランチャイズ提携」を更に活用し、経過などを広く発信していくことで、結果的にホールの価値はさらに向上すると考える。